

令和4年3月21日 メルボルン交流抄

シー・フォレスト社視察

3月、4回目のタスマニア訪問。家畜から放出されるメタンガスを激的に削減するカギケノリ（海藻 *Asparagopsis*）の研究開発を行っておられる辰巳正幸さんと半年ぶりに再会しました。ホバートから東へ1時間半。ウォンバットの島として知る人ぞ知るマライア島への玄関口ライバナに、辰巳さんが勤務されている会社 Sea Forest があります。

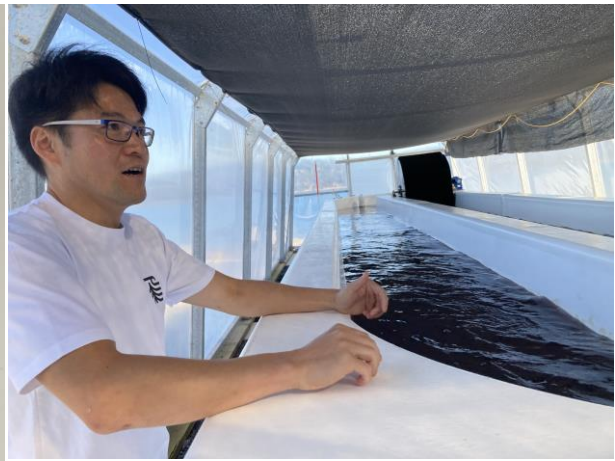
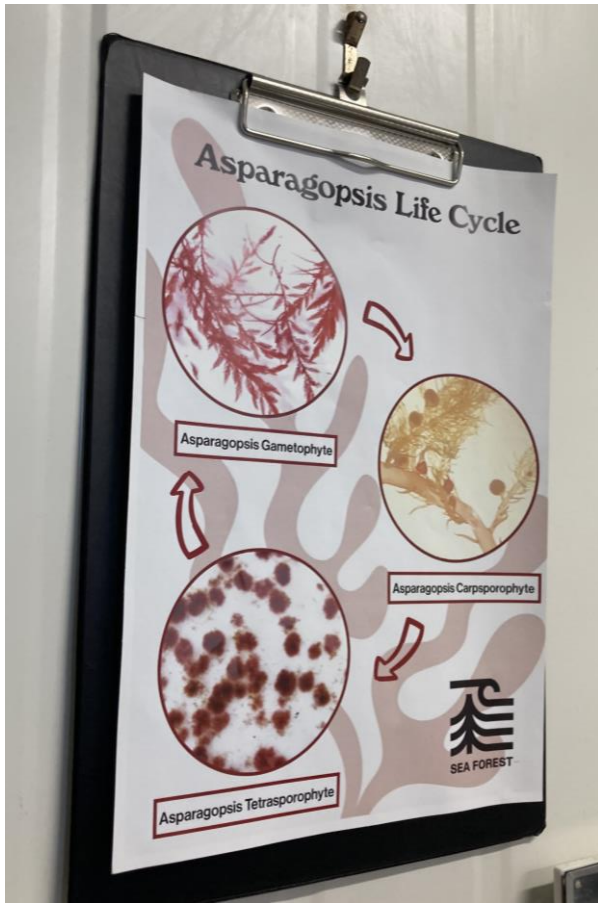
1年ほど前にお会いした時は、タスマニア大学海洋学研究所で研究員としてカギケノリなどを研究されていましたが、その後、今の会社に入られ、実際にプロジェクトを任されて実用化を進められています。大学では1、2年を要するであろう施設の設置・拡充も、今のスタートアップ企業は即決で辰巳さんの要望に沿って資金提供して整備してくれるそうです。

今オーストラリアでは、車から排出される排気ガスよりも家畜から排出されるメタンガスの方が量的に多いといわれています。このカギケノリを混ぜた飼料を牛に食べさせると、なんと最大98%メタンガスが削減されるとも言われています。世界からこのカギケノリに注目が集まる理由はここにあります。

辰巳さんは、カギケノリの養殖を海中（18,000,000平方メートル（注：東京ドーム約385個分の広さ））と陸上の水槽で行っておられます。以下の写真は後者の養殖の過程です。

辰巳さんは従来の考え方に捉われず、他者の意見でも良いものは積極的に取り入れる非常にプラクティカルな研究者です。タスマニアでの生活が長く、海に潜ることも仕事の一部。プライベートでもライセンスを取って、海に潜ってロブスターや鮑を採られることもあるそうです。喫緊の地球温暖化の課題に挑む、非常に画期的なお仕事を意欲的に取り組んでおられました。また、次回辰巳さんにお会いするのが楽しみです。





島田順二